〈研究ノート〉

ドイツの難民受け容れと排外主義

河村　克俊・中川　慎二

1. 「難民の年」[1]の夏から一年後のドイツ

2016年8月、ドイツの主要な週刊誌は一斉に、前年夏に政府の行った難民政策について振り返る記事を掲載した。『週刊経済33号』(2016年8月12日)[2]は表紙にドイツ連邦共和国首相アンゲラ・メルケルの顔写真（ただし右半分）を背景に「私たちはやり遂げたのか？危機的な難民問題の一年　ーその帰結」という表題を浮かび上がらせている。そして特集記事としてこの問題を取り上げ、次のように問う、「私たちはやり遂げたのですか、首相？」[3]。また、『シュテルン35号』(2016年8月25日)[4]には、表紙に多数の難民を乗せた小さなボートが岸辺に近づく光景をとらえる写真を上部に、アンゲラ・メルケル首相の顔写真を下部に置き、大きな文字で「メルケルの単独決断」、そして小さな文字で「あれから一年。首相の孤独な決断はこの国をどのように変えたのか」と書かれている。そして特集としてこのテーマに関する二つの記事を載せている。一方は「難民政策。なぜアンゲラ・メルケルは2015年9月、夥しい数の難民を受け容れたのか」、他方は「歴史的な72時間から一年を経たドイツ」というタイトルをもつ。最初の記事には2015年9月4日から6日の間にメルケル首相が行った大きな決断について、首相の一日一日の行動を追いつつ、難民が主にブダペストからドイツに向けて大移動する光景をうつす写真が掲載されている。この記事は次の見出しではじまる。「－72時間－2015年9月4日～6日。ドイツを変えた週末。その結果、何十万もの難民が突如として国内にやってきた。政治ミステリーの記録－その主役はアンゲラ・メルケル」(S. 28)[5]。また『シュピーゲル33号』(2016年8月11日)[6]は、「ある夏のお伽話」という見出しのもとに、「ブダペ

1　この名称は雑誌『シュピーゲル51号』(2015年12月）が2015年を振り返りつつ巻頭の論説で用いたタイトルである（同誌p.10を参照)。

2　*Wirtschafts Woche* 33/ 12.8.2016.

3　この問いには以下の文が続く。「2015年8月、アンゲラ・メルケルは『私たちはやり遂げるだろう Wir schaffen das』と請け合った。12ヵ月後、この国は二つに分裂している」(同誌p.4)。またドイツを動かした言葉として2015年8月31日記者クラブで行った会見での首相の発言を引用する。「ドイツは強い国である。私たちは次のような理由から、すなわち私たちはこれまで多くのことを成し遂げてきたのだから、この課題にも着手すべきである。私たちはやり遂げるだろう」(『週刊経済33号』p.16)。先にみたここでの複数の問いかけは、メルケル首相のこの「私たちはやり遂げるだろう」という言葉に対して投げかけられたものに他ならない。なおこの記者クラブでの会見については以下を参照。https://www.bundesregierung.de/Content/DE/Mitschrift/Pressekonferenzen/2015/08/2015-08-31-pk-merkel.html

4　*Stern*, Nr. 35, 25.8.2016.

5　資料によれば、2015年1月1日から7月末までにドイツで難民申請を行った人の数は既に21万8千人に上っていた。以下を参照、『シュピーゲル36号』(2015年8月29日、p.21)。その後、2015年末までに総計約80万人がドイツで難民申請を行うことになる（『シュテルン35号』2016年8月25日p.38)。

6　*Der Spiegel. Das deutsche Nachrichten-Magazin,* 33/ 2016.

スト東駅からやってきた難民たちをドイツが受け容れてから、一年が経過した。メルケル首相を歴史的な行動へと駆り立てたのは何だったのだろうか？またメルケルは、そしてドイツは、これに対するどのような代価を払うことになるのか？」（S. 20）と記している。これらの見出しを一瞥することから、昨年 9 月以降に起こった大量の難民流入という事件の鍵を握っていたのが、連邦共和国首相アンゲラ・メルケル女史に他ならないことが改めて確認できる。この大きな決断は、政権の中枢にあるキリスト教民主同盟（CDU）やキリスト教社会同盟（CSU）の主要な議員たちが意見を出し合って決めたことではなく、また CDU・CSU と社会民主党の議員などから成る内閣で話し合った結果として決定されたことでもなく、メルケル首相が単独で行ったとみなされているわけである。確かに多くの難民はメルケル首相を自分たちの救済者とみなしていたようだ。ある写真には、多数の難民たちが高速道路を歩く背景のうちに、難民の一人がメルケル首相の写るポスターを首からさげつつ、杖をつきながら歩く姿の写真が前面に置かれ、「9 月 4 日、ブダペストから約千人の難民たちが歩き出す。彼らの目的地はドイツであり、彼らの希望は、アンゲラ･メルケルである」という短い説明文が付されている（『シュテルン 35 号』pp.28-29）。他にもミュンヘンに着いたばかりの難民女性がメルケル首相の写真を手にしている姿を撮ったものや、難民とメルケル首相が一緒に写真撮影しているところを撮った写真などがみられる（同誌 pp.34-35）[7]。別の数ページには、9 月 4 日朝から 6 日にかけてのメルケル首相の行動が詳細に記述され、また数枚の写真によってメルケル首相が決断へと至るプロセスを描写している。そのなかでとりわけ目を引くのは、小さな男の子が海岸に打ち上げられて死んでいる姿の写真である。そこに付された説明によれば、男の子はシリア人のアラン・クルディくん（3 歳）だった。「ある写真が世界中を駆け抜けた。地中海を渡って逃避しようとしていた 3 歳のアラン・クルディ少年は溺死する」（S. 30）。記事によれば、「世界を動揺させた」この写真をドイツではほとんど全ての新聞が掲載しており、メルケル首相がこれを目にしていなかったとは考えられない。また同じページには、71 人の難民が貨物自動車のなかで死亡した事件について、「西バルカン・サミット」というウィーンでの会議に出席中のメルケル首相の耳に入っていたことが、写真と共に記載されている。『シュテルン 35 号』には、「私たちはやり遂げるだろう」というメルケル首相の一年前の言葉が引かれ、何がやり遂げられたのか、そして何がそうでなかったのかについて検証している[8]。難民の大量受け容れをもたらす大きな決断は、複数の個別的事件や情報などが前提となり、最終的には首相のもつ政治的理念に基づいて行われたものに他ならないだろう。『シュテルン 35 号』によれば、政府としての最終的な決断が下されたのは、9 月 6 日（日曜日）連立政権の主要メンバーが集まる連邦総理府での会議でのことだった。午後 7 時にはじまったこの会議は 6 時間に及び、難民の宿泊施設ならびに支援のために 60 億ユーロを支出することなどが決まった後、深夜 1 時に終了する。この 9 月 6 日（日曜日）一日で 12,000 人の難民が国境を越えてバイエルン州へなだれこんでいる。またこの週末だけで約 20,000 人の難民をドイツは受け容れたことになる[9]。2015 年 9 月 6 日に行われたこの決断がもたらす結果については未だ定かではな

7　ある写真記事には、メルケル首相が難民たちにとって自らの向かう目的地のシンボルとして描かれている。また、2015 年 9 月 10 日にベルリン-シュパンダウにある難民申請者の施設を訪れたメルケル首相が難民と一緒に写真を撮っている姿がみられる（『シュテルン 35 号』pp.34-35）。

8　例えば政府が百万人の受け容れを想定していたのに対し、二重カウントされた人を除くと 2015 年にドイツ連邦共和国で難民申請を行い、認定を受けた人の総数は約 80 万人であるとされる（『シュテルン 35 号』2016 年 8 月 25 日 p.38 を参照）。

9　以上、『シュテルン 35 号』pp.29-35。

い。難民を多数受け容れたノルトライン・ヴェストファーレン州をはじめとする各州では難民の子供たちを受け容れるための施設ならびに教職員の確保という問題に翻弄されているという報告がある。また、難民申請者の中にテロリストが混じっていないという保証はない。既に報道されているように、2015 年末ケルンで、また 2016 年 12 月にはベルリンで、難民認定を受けた者や難民申請者が関わる事件が起こっている。2016 年夏のドイツは、一年前の夏を振りかえり、そこで起こった事件ならびにメルケル首相の決断について改めて考えることで、自らの現在を確かめようとしていたといえるだろう。それから半年を経た今もシリアの内戦は未だ終結の見通しがたたず、近東地域の治安状況は改善されていない。ドイツならびにヨーロッパ諸国に受け容れられた難民の人々が自らの国へ帰ることができるようになるまでには、まだしばらく時間がかかるに違いない。

2. ペギーダと難民

「ヨーロッパのイスラム化に反対する愛国的ヨーロッパ人（Pegida）」と名乗るグループがフェースブック上に登場したのは 2014 年の秋だった。その後このグループはドレスデンを拠点に集会やデモを行うことで、その基調である「反イスラム」という考え方を社会に対して強く訴えることになる。また、その活動は、ドレスデンを中心にドイツ内外の様々な町に飛び火している。ところで、この活動の起源のあたりに位置し、また活動を助長することになったのは、ドレスデンにおける難民の受け容れに対する人々の反発であり敵愾心だった。ドレスデン工科大学の政治学教授 H. フォアレンダーによれば、2014 年秋にペギーダが成立する直接の動機となったのは、ドレスデン市の行政機関ならびにその周辺の行政区により、難民申請者への新たな宿泊施設の設置計画が公表されたことだった[10]。ドレスデン市はすでに 2014 年 6 月に、増え続ける難民申請者に対応し、750 万ユーロの追加予算措置を新たな難民申請者の宿泊施設のために計上している。同時にいわゆる「ドレスデンの難民」という円卓会議が設立され、教会や慈善団体の代表が、またそれ以外の協会や政治的活動家の代表が顧問としてそこに加わった[11]。2014 年 12 月 10 日フェースブックに掲載されたペギーダの政策ペーパーには、その第三条に以下のような文がみられる。「ペギーダは戦争難民とその追随者に、人間の尊厳に相応しくないような［集中的な］施設ではなく、施設を［各地に］分散して提供することに賛成する」[12]。ここでは戦争難民についてその受け容れを拒否するのではなく、これに「賛成」する旨が述べられており、しかも第二次大戦中の強制収容所を想起させる集中的な収容所に反対すらしている。また第四条には難民の受け容れについてのテーゼが見られる。「ペギーダは難民［の受け容れ］について全ヨーロッパが分担する基準を作成すること、また欧州連合の全ての国が正当な割り当てを担うことに賛成する」[13]。この政策ペーパーをみることから、ペギーダはヨーロッパへイスラム系の難民が流入することにただ反対しているだけではなく、その受け容れについての政策提案を行っていることがわかる。ただし、この時点ではシリアをはじめとする難民のヨーロッパへの流入は未だ本格化していなかったといえる。大量の難民がドイツ国内に流入することがペギーダの政策ならびに活動にどのような影響を与えたのかについて、今後さらに検証してみたい。

10 Hans Vorländer u.a., *PEGIDA. Entwicklung, Zsammensetzung und Deutung einer Empörungsbewegung,* Springer Fachmedien Wiesbaden 2016, p.34f.

11 以上、フォアレンダーの上掲書 34 ページを参照。

12 http://www.i-finger.de/pegida-positionspapier.pdf

13 http://www.i-finger.de/pegida-positionspapier.pdf

3.　インターネットとヘイトクライム
ーケルンでの性的暴行事件と差別言論

2016 年 12 月 31 日大晦日のケルン中央駅前（Hauptbahnhof Köln）とケルン・ドイツ駅（Köln-Deutz）では約 650 名の「北アフリカ出身」と思える男性に対してケルン警察が検問を行ったことが『シュピーゲル・オンライン』で報道[14]された。2015 年の大晦日にケルン中央駅前で発生した性的暴行事件に対して警察の責任を問う厳しい批判に曝されたケルン警察が断行した厳重な警備であり、約 1500 名の警官が投入されたという。日本では東京新聞に「独ケルン『北アフリカ系』650 人に職質」という上見出し（横）に「治安対策『人種差別』批判も」という大見出し（縦）でアムネスティ・インターナショナルのコメントとともに警察の行き過ぎた警備を批判した記事[15]が掲載された。「北アフリカ系」の人たちに対してケルン警察が内部の表現として用いていた表現が „ Nafri “（nordafrikanisch= 北アフリカ系 / 出身の）「北アフリカ系」であり、nordafrikanisch の省略形である。ケルン警察ではこの「ナフリ」（Nafri）という表現を用いて、モロッコ、アルジェリア、チュニジアなどの北アフリカ系の人たちをケルン中央駅前で検問していたことが判明し、そのことが人種差別ではないのかと批判され報道されたのである。

これは、日本人をジャップ（Jap）と呼んだり、朝鮮人を「チョン（コ）」と呼ぶのと類似した表現様式である。Nafri と Jap はそれぞれ形容詞 nordafrikanisch や japanese の短縮形である。チョンについては、江戸時代の「ちょん」、つまり「知恵が少し足りない」[16]から転じた用法という説が有力であるが、それが朝鮮（ちょうせん）の蔑称として用いられてきた。語源的にはもともと差別用語ではなかったが、語用論からは明らかに蔑称として用いられている言葉であり、差別表現と分類できる。

Nafri は、しばらく前[17]からは SNS でも使用されている。2017 年元旦早々、とりわけ、ケルン中央駅前厳重警備と警官による Twitter 書き込み事件のあとは、ドイツの SNS（Social Network Service）の Twitter[18]で炎上した。

翌 2017 年 1 月 2 日にはケルン警察署長ユルゲン・マティースが WDR（Westdeutscher Rundfunk）[19]のインタビューに答えて、「その言い方が現場で使われていたのは大変不幸なことだ。このことを大変遺憾に思う」と謝罪発言したことを『シュピーゲル・オンライン』が報道[20]している。元連邦警察官 Nick Hein[21]によると以下のような省略形が無線交信では日常的に使用されているという。

---

14 Kölner Silvesternkontrollen Was bitteschön ist ein „ Nafri “ ? (2017 年 1 月 1 日 16：09 付 Spiegel Online)
[http://www.spiegel.de/panorama/justiz/silvester-kontrollen-in-koeln-was-bitteschoen-ist-ein-nafri-a-1128172.html 2017 年 1 月 1 日閲覧]

15 東京新聞 2017 年 1 月 4 日付（国際面：4）

16 金田一京助ほか編『新明解国語辞典』（第 4 版）

17 Twitter では、ケルンの襲撃事件関連のつぶやきではすでに 2016 年 1 月の書き込みにこの表現が使用されている。

18 Twitter では、Nafri あるいは Kölner Polizei Nafri で検索すると 2015 年ケルン中央駅前暴動でもすでにユーザーによって Nafri という表現が用いられて投稿されているのがわかる。BZ（Berliner Zeitung 2017 年 1 月 4 日付オンライン誌）によると、これらの表現は警察内で使用されているいわゆる隠語であるとしている。
[http://www.bz-berlin.de/deutschland/nafri-spusi-limo-und-co-das-sind-die-abkuerzungen-der-polizei 2017 年 1 月 4 日閲覧]

19 公共第 2 放送（ARD）グループに属する NRW（ノルトラインヴェストファーレン州）にある地域公共放送。

20 Debatte um Silvesterkontrollen Kölner Polizeipräsident bedauert „ Nafri “-Begriff. (2017 年 1 月 2 日 14：23 付 Spiegel Online)
[http://www.spiegel.de/panorama/justiz/koeln-polizeipraesident-bedauert-nafri-tweet-der-polizei-a-1128215.html 2017 年 1 月 3 日閲覧]

21 Hilo,Ladi,Exhibi：Diese Abkürzungen verwendet die Polizei. (2017 年 1 月 3 日付 Kölner Stadt-Anzeiger Politik)

Hilo = hilflose Person（z.B. Betrunkene）：
「酔っぱらいのようなフラフラの人」
Ladi = Ladendieb：「商店への押し入り」
Limo = Linksmotivierter Straftäter：
「左翼系の犯罪者」
Remo = Rechtsmotivierter Straftäter：
「右翼系の犯罪者」
Rabu = Person aus Rumänien oder
BulgarienBTMer = Drogenkonsument（von BTM, Betäubungsmittel）：
「ルーマニア人あるいはブルガリア出身の麻薬使用者」
Exhibi = Exhibitionist：「露出症」
LZA = Ampel（Lichtzeichenanlage）：「信号」
EMS = Einsatzmehrzweckstock（Schlagstock）：
「警棒」
Spusi = Spurensicherung：「痕跡保存」
HB = Haftbefehl：「逮捕命令」
Gesa = Gefangenensammelstelle：
「逮捕者集結場所」
Acht = Handschellen：「手錠」
BeDo：Beweissicherung und Dokumentation：
「物証確保と記録」
BePo：Bereitschaftspolizei：「待機警官隊」
Bunker：Polizeigewahrsam：「拘置所」
GefKV：Gefährliche Körperverletzung：
「重度負傷」
GEWA SPORT. Gewalttäter, Hooligans：
「暴力犯」「ごろつき」
MANV Massenanfall von Verletzten：
「負傷者の大量発生」
OS：Objektschutz：「対物保護」
OWi：Ordnungswidrigkeit：「秩序違反」
PEKO：Personenkontrolle：「対人検査」
WAWE：Wasserwerfer：「放水」

そして、その中に Nafri があり、犯罪を重ねるもの、「北アフリカ出身の暴力犯ないし犯罪者」という意味で使われており、単に北アフリカ系という意味ではない。警察内部では 2013 年から使われているという。

この問題の始まりは、12 月 31 日土曜日のこと、大晦日の夜 23 時ころに、北アフリカ出身とわかる数百人の若い男性が中央駅のところに集まってきたときのこと。警察はツイッターに、「HBF［中央駅］では現時点で数百人のナフリーズが検問されている。情報に従ってください。」と書き込んだことにはじまる。ケルン警察署長のユルゲン・マティースは 1 月 2 日に緊急記者会見を開かざるをえなくなった。SNS ではたちまちケルン警察の先入観と民族主義的な言語使用について議論が盛り上がった。マティースは、ツイッターでの公表についてすぐに謝罪した。ツイートをした公務員は決してその（北アフリカ系）グループを、決してひっくるめて犯罪者扱いをしているわけではないと。これが、2015 年大晦日のケルン中央駅前性的暴行事件の続編である。

2015 年大晦日の事件のあと、ケルンのモスリムが「憎悪の新しい次元」（neue Dimension des Hasses）[22] と指摘したのがまさに、この SNS での差別言論、つまりヘイトクライムの問題なのである。

22 参照 http://www.zeit.de/gesellschaft/zeitgeschehen/2016-01/silvester-uebergriffe-koeln-muslime-fremdenhass（2016 年 12 月 1 日）